

スタートガイド

Panasonic A6B シリーズ

EtherCAT AC サーボドライバ

CiA402 CSP モード with 86EVA

86Duino Coding IDE 501

EtherCAT Library

(Version 1.0)

改訂履歴

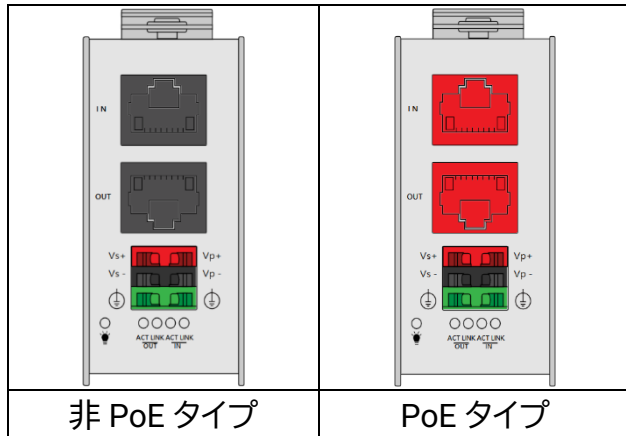
記述日	バージョン	備考
2025/1/21	Version1.0	New Release.

序文

本ガイドでは、QEC-M-01 (EtherCAT M デバイス) と Panasonic A6B Series (AC サーボドライバ)の使用方法を説明します。

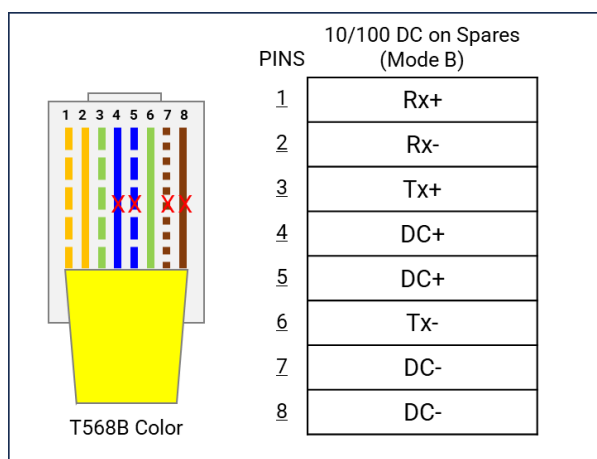
注意 QEC 機器の PoE (Power over Ethernet)について

QEC 製品のインストレーションでは、ユーザーは PoE と非 PoE を簡単に区別できます：
RJ45 ハウジングが赤色の場合は PoE タイプ、RJ45 ハウジングが黒色は非 PoE タイプです。



PoE(Power over Ethernet)は、ネットワーク経由で電力を供給する機能です。QEC には配線を減らすためオプションとして PoE 機能を用意しています。実際には PoE はシステム機器に基づいて選択されるため次の点に注意してください。

1. QEC の機能は EtherCAT P とは異なり互換性がありません。QEC の PoE 機能は PoE タイプ B に準拠しており、下記のようなピン配列になっています：



2. PoE デバイスと非 PoE デバイスを接続するときは、必ず EtherNet ケーブルのピン 4、5、7、8 を切断してください (例えば PoE 対応の QEC EtherCATM デバイスを他社の EtherCATSub デバイスに接続する場合)。
3. QEC PoE 電源は最大 24V/3A です。

1. ハードウェアの接続と配線

ここでは次のデバイスを使用します：

1. QEC-M-01 (EtherCAT M デバイス)
2. Panasonic A6B Series (AC サーボドライバ)
3. 24VDC 電源 & ヨーロッパタイプ端子ケーブル & LAN ケーブル
4. Panasonic A6B Series 用 AC 200-220V 電源



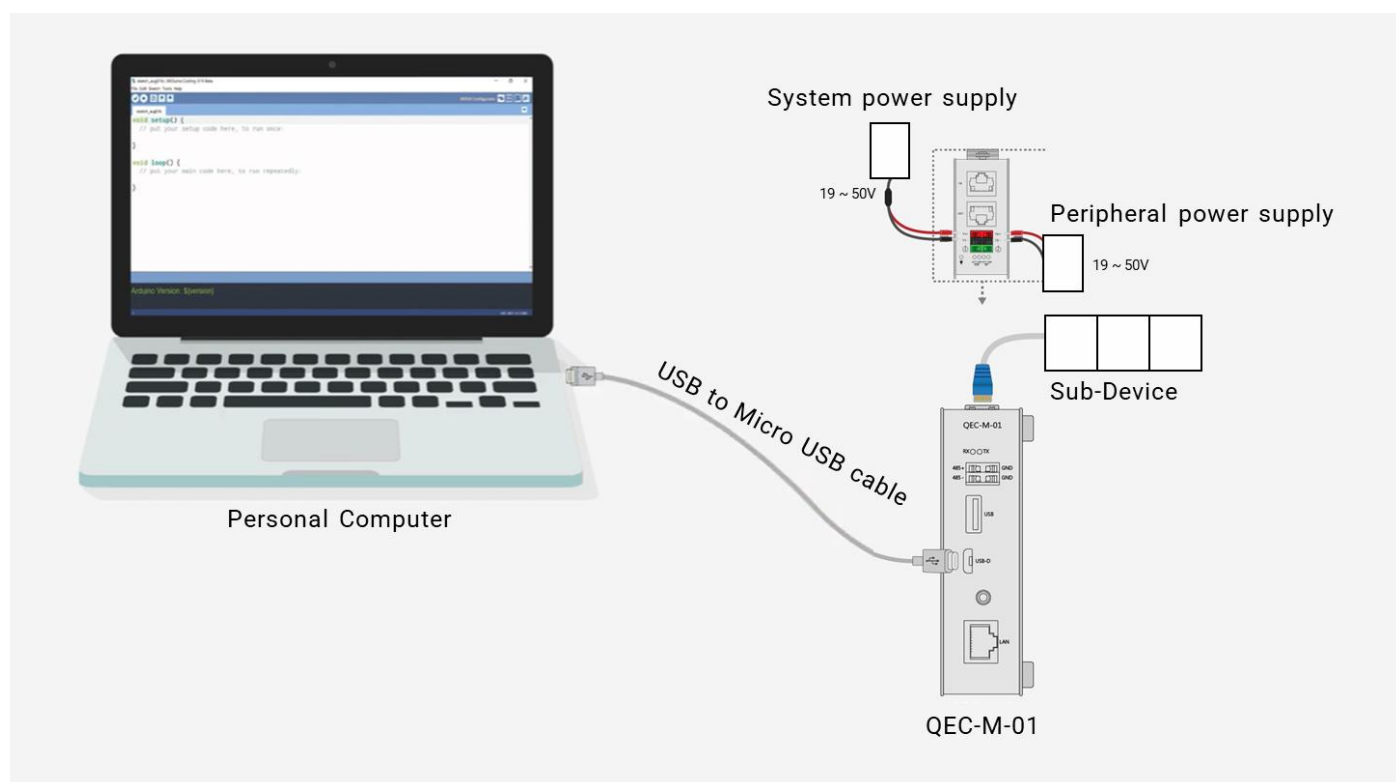
1.1 QEC-M-01

QEC EtherCAT M デバイス

1. 電源:

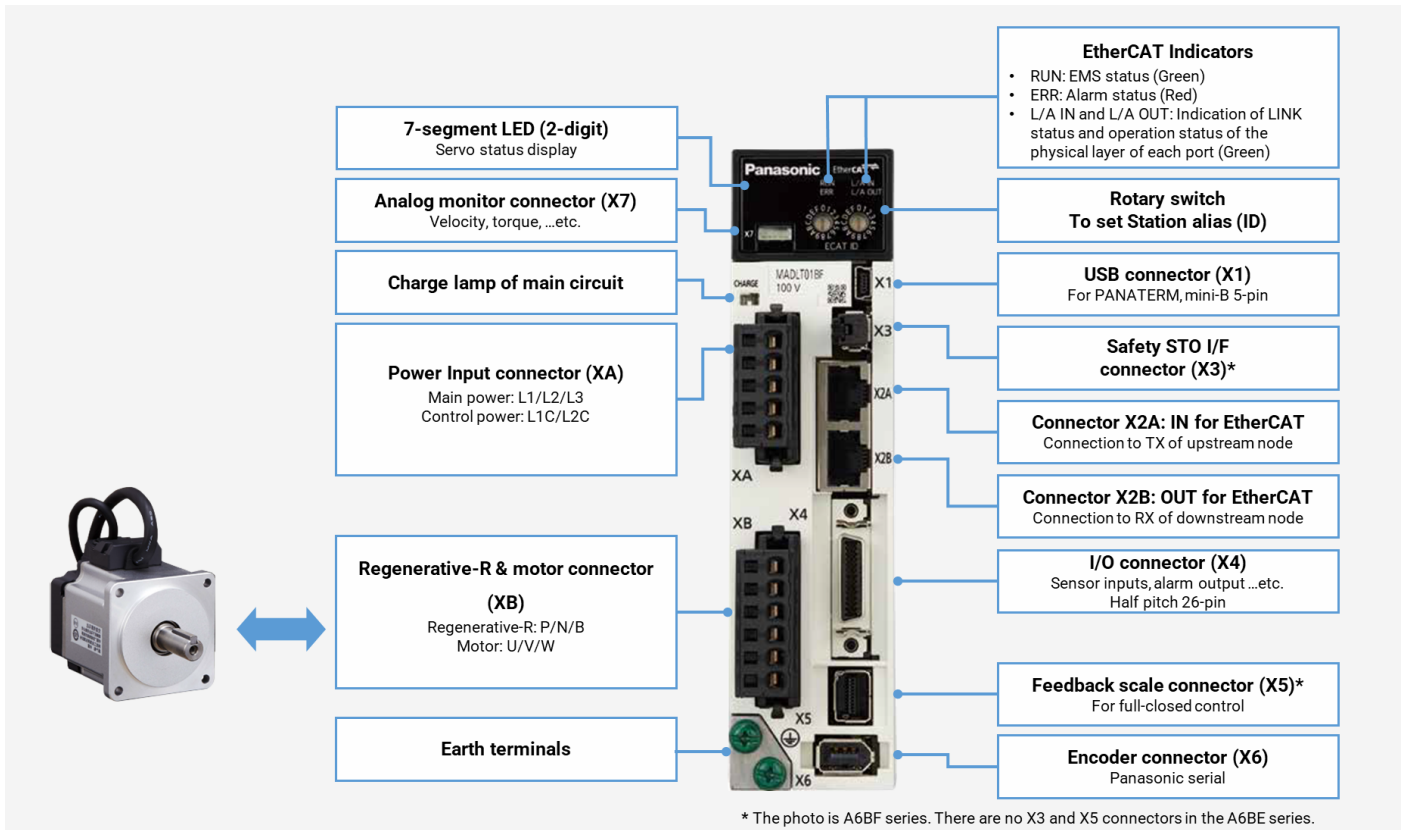
24V 電源を QEC EtherCAT M デバイスのヨーロッパタイプ端子 Vs+/Vs- および Vp+/Vp- に接続

2. EtherCAT 通信: EtherCAT 出力ポート (上側) から EtherCAT Sub デバイスの EtherCAT 入力ポートに RJ45 ケーブルで接続



1.2 Panasonic A6B Series

Panasonic A6B Series シリーズは、高性能に統合された EtherCAT 対応 AC サーボドライバです。この図は、ドライバの配線ガイド例を示します。



1. EtherCAT 接続

- ネットワーク通信の EtherCAT 入力ポート(X2A)と EtherCAT 出力ポート(X2B)
- デバイス識別用のステーション ID ロータリースイッチ

2. 信号接続

- 入出力信号インターフェース(X4): デジタル入出力用
- エンコーダコネクタ(X6): モータ位置の追跡用
- エンコーダコネクタ(X6): モータ位置の追跡用

3. 電源供給

- 主電源入力(XA): モーターに電力を供給します
- 制御電源入力(XA1/XA2): ドライバの制御回路に電力を供給します

4. 安全性とステータス

- 安全 STO インターフェース(X3): 緊急停止のための安全トルクオフ(STO)機能をサポートします
- LED インジケータ: ドライバの状態、EtherCAT 通信の状態、およびエラー情報を表示します

5. その他の機能

- ロータリースイッチ: ステーションエイリアス(ID)の設定に使用します。
- USB インターフェース(x1): 設定および監視に使用します

配線図の概要

以下は、Panasonic A6B EtherCAT サーボドライバの一般的な配線例です。

1. EtherCAT M デバイス接続:

- QEC-M-01 の EtherCAT 出力ポートをサーボドライバの X2A(EtherCAT IN)ポートに接続します
- 追加のサブデバイスが必要な場合は、X2B(EtherCAT OUT)ポートを次のサブデバイスの EtherCAT 入力に接続します

2. モータ接続:

- モータの U、V、W 線を XB コネクタに接続します
- 回生抵抗を P、N、B 端子に接続します

3. 電源配線:

- 主電源を XA コネクタ(L1、L2、L3)に接続します
- 制御電源を XA1 および XA2 端子に接続します

4. 信号配線

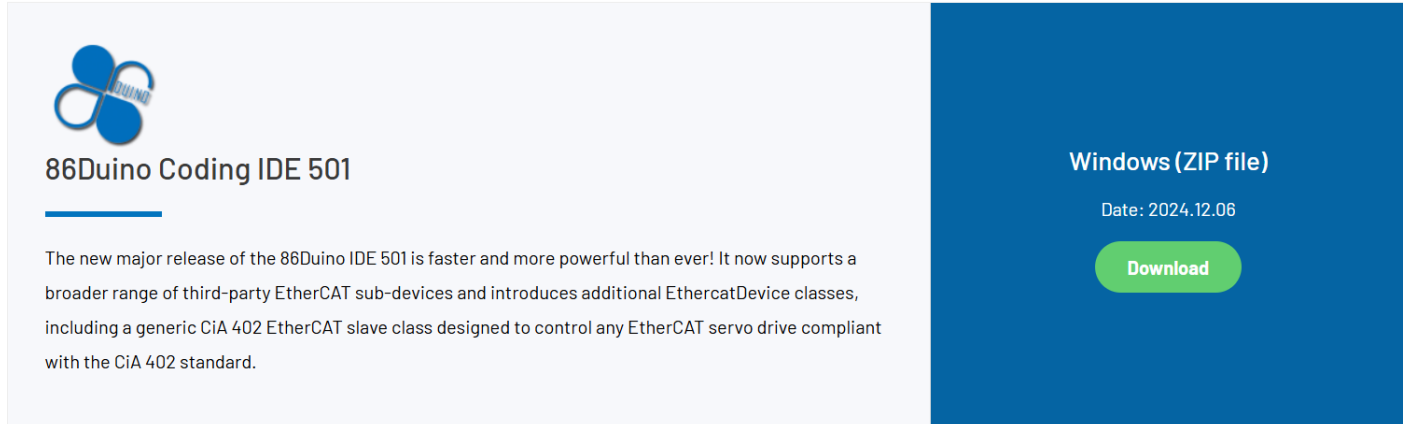
- センサやアラームなどの入出力信号を X4 コネクタに接続します
- エンコーダ信号線を X6 コネクタに接続します

5. 追加設定:

- ロータリースイッチを使用してステーションエイリアス(ID)を設定します
- X1 USB インターフェースを介してサーボドライバを設定します

2. ソフトウェア/開発環境

<https://www.qec.tw/software/>から 86duino IDE をダウンロードしてください。



86Duino Coding IDE 501

The new major release of the 86Duino IDE 501 is faster and more powerful than ever! It now supports a broader range of third-party EtherCAT sub-devices and introduces additional EthercatDevice classes, including a generic CiA 402 EtherCAT slave class designed to control any EtherCAT servo drive compliant with the CiA 402 standard.

Windows (ZIP file)
Date: 2024.12.06
[Download](#)

ダウンロード後、ダウンロードした zip ファイルを解凍してください。

追加のソフトウェアのインストールは必要ありません。86duino.exe をダブル・クリックして IDE を起動します。



***注:** Windows が警告を表示させた場合は、[詳細]を 1 回クリックし、[実行を続行]ボタンを 1 回クリックします。

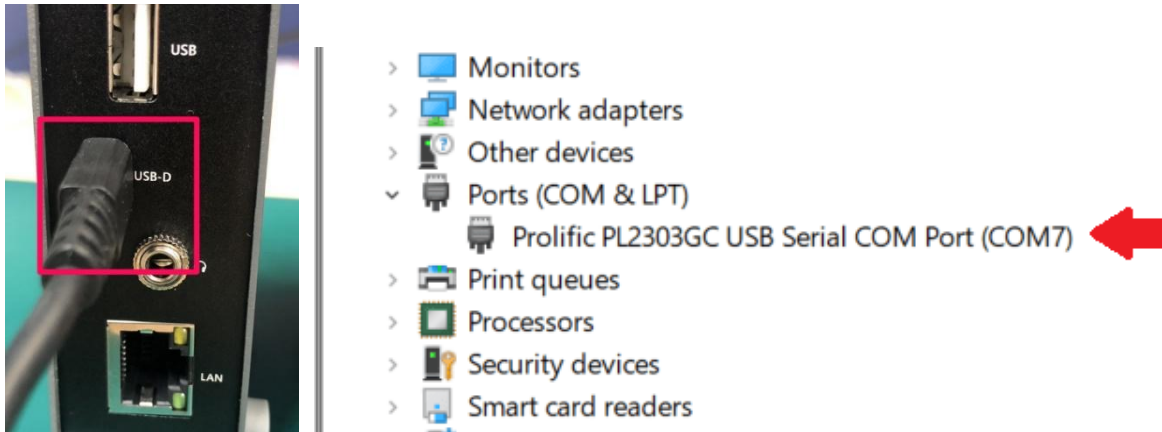
86Duino コーディング IDE 500+ は下図です。



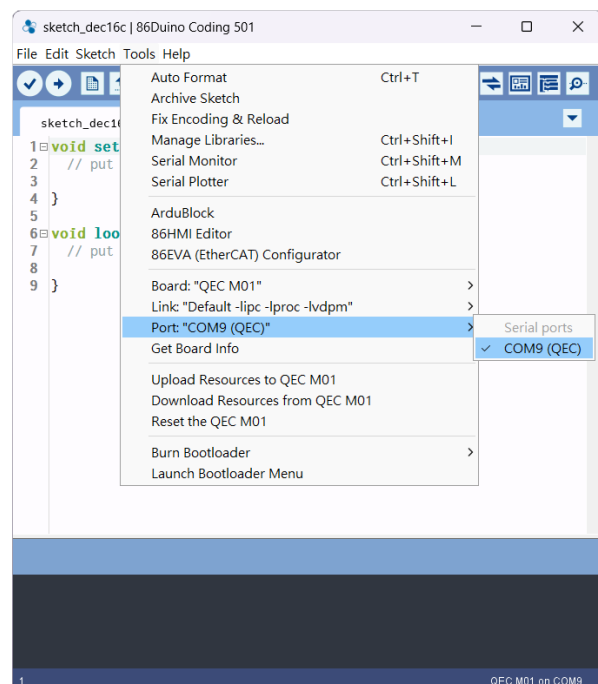
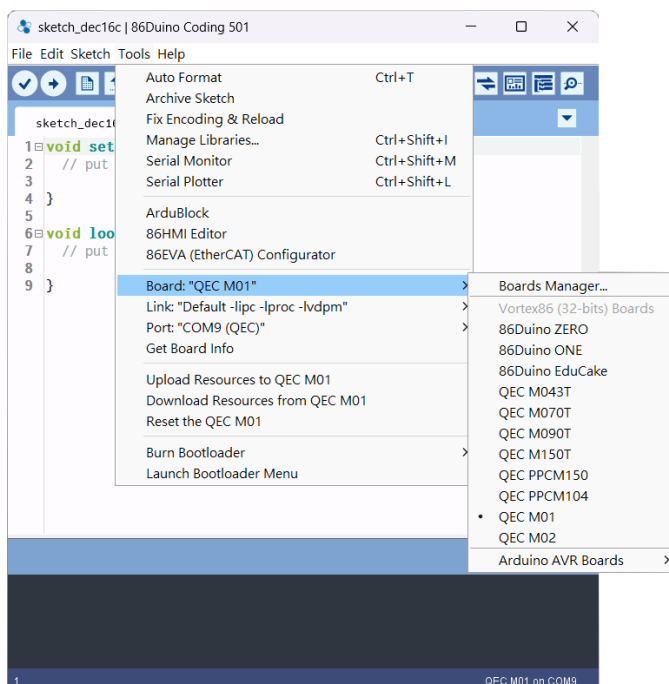
3. PC に接続して環境をセットアップする

以下の手順に従って開発環境をセットアップします:

1. Micro USB - USB ケーブルで QEC-M-01 を 86Duino IDE がインストールされた PC に接続します
2. QEC の電源を投入します。
3. PC で「デバイス・マネージャー」(Win+X キーを押した後のメニューで選択) -> 「ポート(COM および LPT)」を開き、ポートの内容を確認します。「Prolific PL2303GC USB Serial COM Port (COMx)」が検出されていることがわかります。検出されていない場合は、必要なドライバをインストールする必要があります(Windows PL2303 ドライバの場合は、[ここ](#)からダウンロードできます)



4. 86Duino IDE を開きます。
5. ボード(QEC M デバイス)の選択: IDE のメニューで、[Tools] > [Board] > [QEC-M-01] (または使用する QEC-M M デバイス型名) を選択します。
6. ポートの選択: IDE のメニューで、[Tools] > [Port] を選択し、デバイス・マネージャーで確認した QEC-MM デバイスに接続する USB ポートを選択します (この場合、COM9 (QEC))。



4. 86EVA によるコード記述

この例では 86Duino IDE のグラフィカルなローコード・プログラミング・ツールである 86EVA を通じて、EtherCAT MDevice(QEC-M-01)と Panasonic A6B (EtherCAT AC サーボドライバ)を操作する方法を示しています。

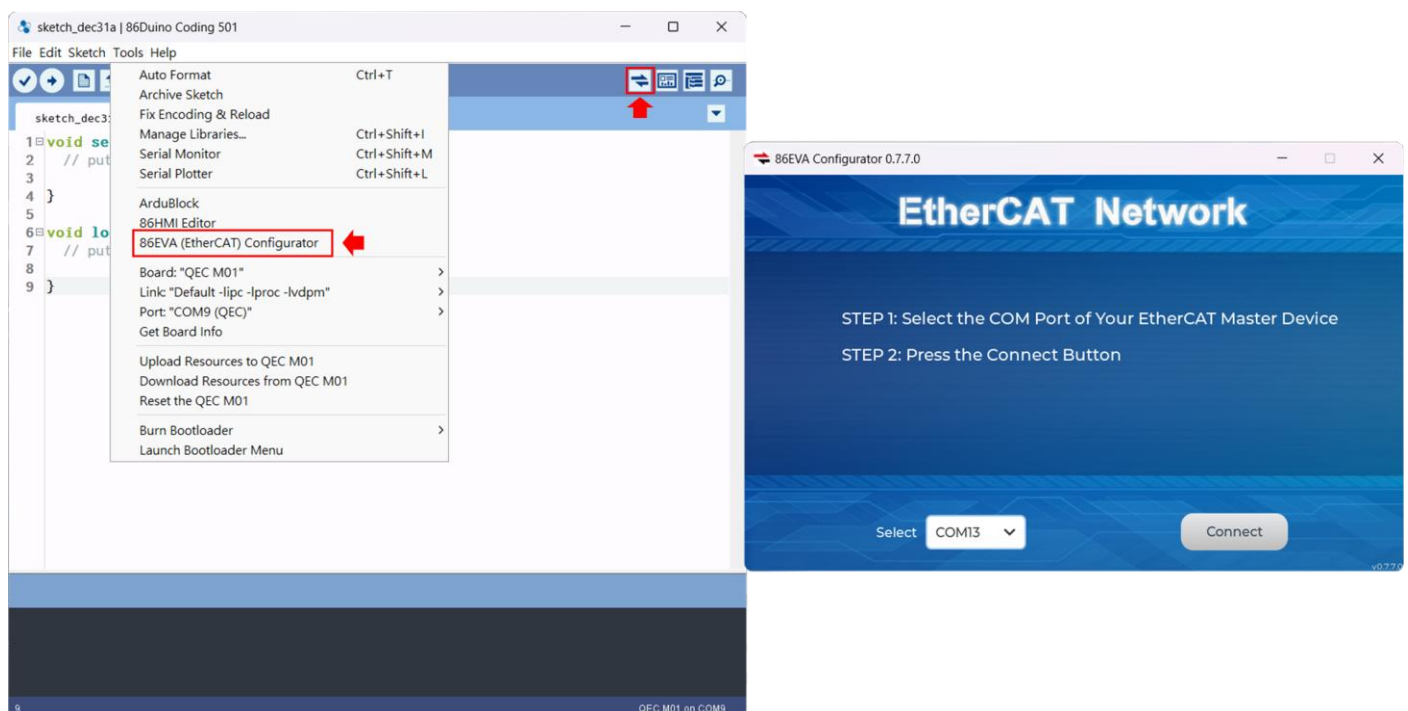
ソフトウェア・ツールの説明:

- 86EVA (EVA, EtherCAT-Based Virtual Arduino):
86EVA は、86Duino IDE EtherCAT ライブラリベースのグラフィカル EtherCAT コンフィギュレータであり、86Duino 開発キットの 1 つです。

このコードは EtherCAT 通信を確立し、Panasonic A6B を Cyclic Synchronous Position (CSP)モードで制御します。モーターの位置は周期的に更新され、目標位置は現在地に 1000 を加えた値が設定されます。

ステップ 1: 86EVA を起動してスキャンする

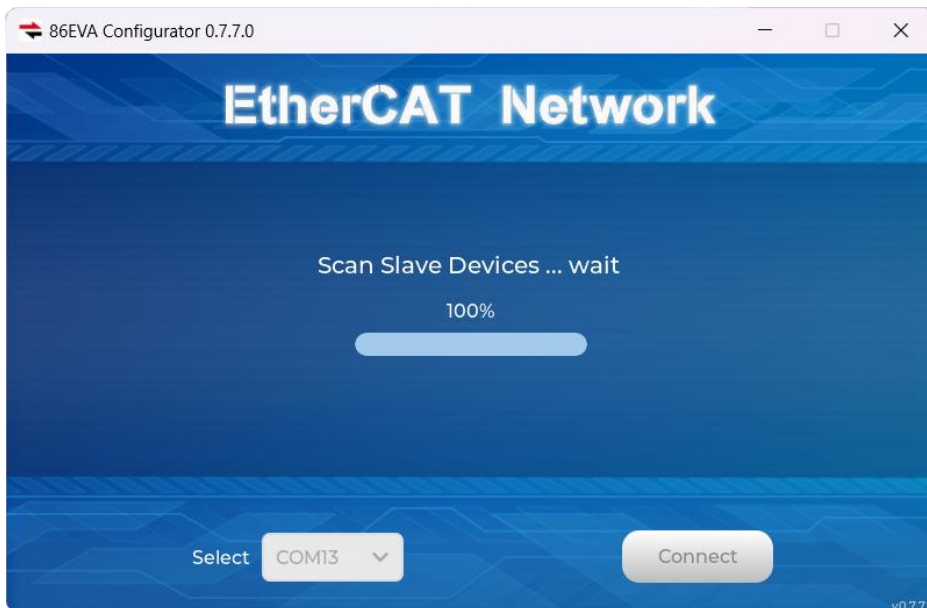
86EVA ツールは次のボタン、またはメニューから開くことができます。



QEC-M-01 の COM ポートが正しく選択されていることを確認します。



QEC-M-01 の COM ポートが正しく選択されていることを確認後、「Connect」ボタンを押し、EtherCAT ネットワークをスキャンします。



EtherCAT ネットワークのスキャンが完了すると、接続されているデバイスが表示されます。



ステップ 2: パラメータを設定する

スキャンしたデバイス画像をダブルクリックすると対応するパラメータ設定画面に入ります。

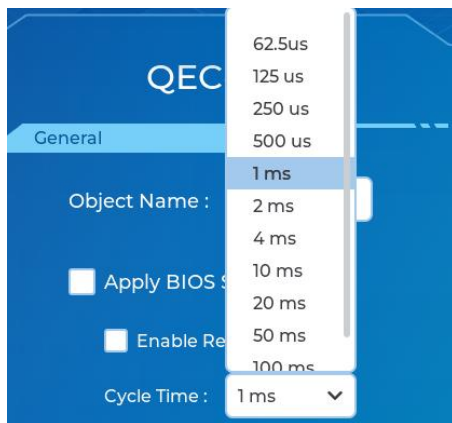
QEC-M-01

QEC-M-01 の画像をダブルクリックすると、パラメータ設定が表示されます。



以下の設定を確認してください。

1. 「Apply BIOS Settings」をオフ
2. 「Cycle Time」で「1ms」を選択



左上の「Back」をクリックして戻ります。



Panasonic A6B サーボドライバ

Panasonic A6B サーボドライバの画像をダブルクリックしてパラメータ設定を確認します。



このページでは Object Name, Alias Address, Vendor ID, Product Code が表示されます。

「Object Name」を "motor"に変更します。

Object Name をクリックすると、キーボードが表示されます。



左上の「Back」をクリックして戻ります。

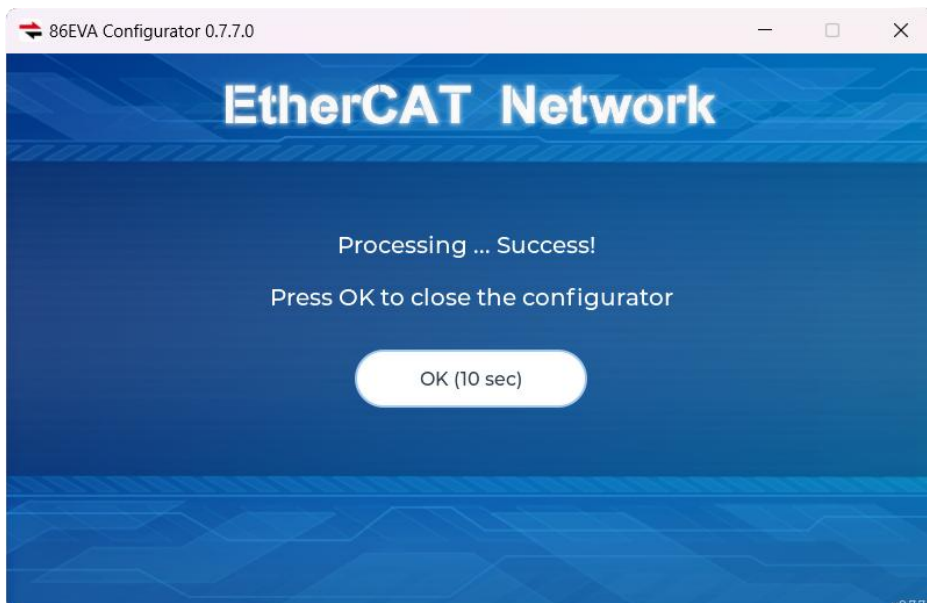


ステップ 3: コードの生成

デバイスのパラメータを設定後、ホーム画面に戻り、右下にある「Code Generation」ボタンを押します。

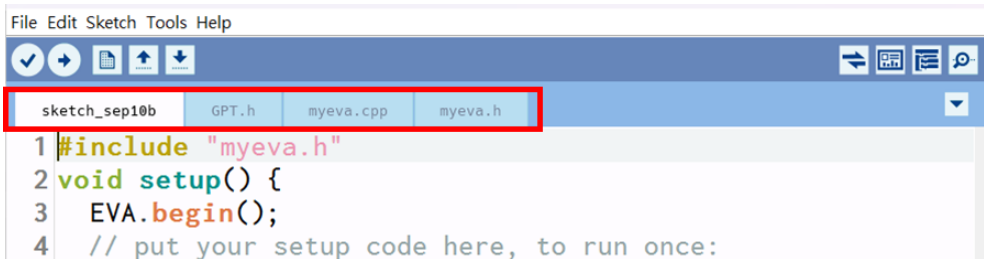


完了後「OK」ボタンをダブルクリックして 86EVA を閉じます。そのままにしておいても自動的に 10 秒後に終了します。



次のコードとファイルが生成されます:

- sketch_sep10b: メイン・プロジェクト (.ino、プロジェクト名による)
- GPT.h: ChatGPT に提供するパラメータ
- myeva.cpp: C86EVA の C++ プログラム・コード
- myeva.h: 86EVA のヘッダ・ファイル



```
File Edit Sketch Tools Help
sketch_sep10b GPT.h myeva.cpp myeva.h
1 #include "myeva.h"
2 void setup() {
3   EVA.begin();
4   // put your setup code here, to run once:
```

追記:

86EVA がコード生成後、メイン・プログラム(.ino)内に下記のコードが自動生成され、いずれかでも欠けると 86EVA が動作しなくなります。

1. #include "myeva.h" : EVA ヘッダ・ファイルのインクルード
2. EVA.begin(); in setup() : EVA 機能の初期化

ステップ 4: コードの記述

86EVA から生成されたプログラミングコードは、デフォルトで以下のように設定されています。

- Panasonic A6B ドライバ: `EthercatDevice_CiA402` object.
- EtherCAT モード: `ECAT_SYNC`.
- EtherCAT Distributed Clock (DC) モード: `Enabled`.

下の箇所はユーザにより設定されています。

- EtherCAT サイクルタイム: `1 ms`
- Device Object Name: `QEC-M-01` は“`EcatMaster`”、Panasonic A6B ドライバは“`motor`”.

A. Setup()関数内の説明:

`setup()`関数では、通信を初期化し、モーターを CiA402 CSP モードに設定します。

下記の手順に従ってください。

1. Serial 通信の初期化
 - Serial 通信をボーレート 115200 でスタート
2. 86EVA を起動し、コールバック関数を登録する。
 - `EVA.begin()` 関数を使用して、EtherCAT ネットワークを起動および初期化
 - `EVA.begin(myCallback)`を使用して、“`myCallback`”という名前のコールバック関数を登録
3. Cyclic Synchronous Position (CSP)モードの設定
 - `setCiA402Mode(CIA402_CSP_MODE)`を使用してモータを CSP モードに設定
4. 現在位置の設定
 - 安全の為、`enable` の開始時に `setTargetPosition()` と `getPositionActualValue()` 関数を使用して最初のターゲット位置を現在位置に設定します
5. モータの有効化
 - `enable()` 関数を使用してモータを有効化し `CIA402_OPERATION_ENABLED` 状態に移行させます。

B. Callback 機能:

`setTargetPosition()` 関数でターゲット位置をセットし現在値に 1000 を加える。

C. Loop 機能:

`loop()` 関数では、モータの現在位置をシリアルモニタに出力する。

コード例:

```
#include "myeva.h"

int32_t position = 0;



void myCallback() {
  if (motor.getCiA402State() != CIA402_OPERATION_ENABLED)
    return;
  motor.setTargetPosition(position += 1000);
}

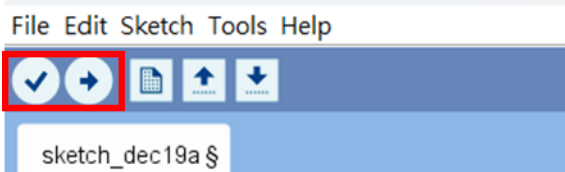
void setup() {
  Serial.begin(115200);

  EVA.begin(myCallback);

  motor.setCiA402Mode(CIA402_CSP_MODE);
  motor.setTargetPosition(position = motor.getPositionActualValue());
  Serial.print("Enable: "); Serial.println(motor.enable());
}

void loop() {
  Serial.print("Pos: "); Serial.println(motor.getPositionActualValue());
  // ...
}
```

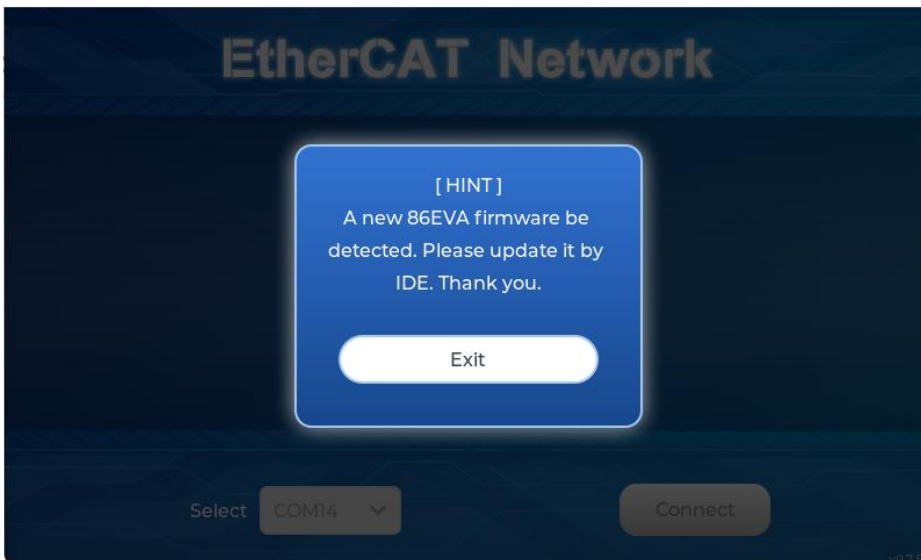
注: コードを記述したならば、ツールバーの  をクリックしてコンパイルします。コンパイルが完了しエラーがないことを確認したら  をクリックしてプログラムをアップロードします。



トラブルシューティング

QEC-M-01 へのコードのアップロードが成功しない

コードのアップロードに成功しない場合は、86EVA を開いて QEC EtherCATM デバイスの環境に異常がないか確認してください。下図のようにブートローダ、EtherCAT ファームウェア、EtherCAT ツールを含む QEC EtherCATM デバイスの環境を更新してください。



アップデートの進め方を説明します：

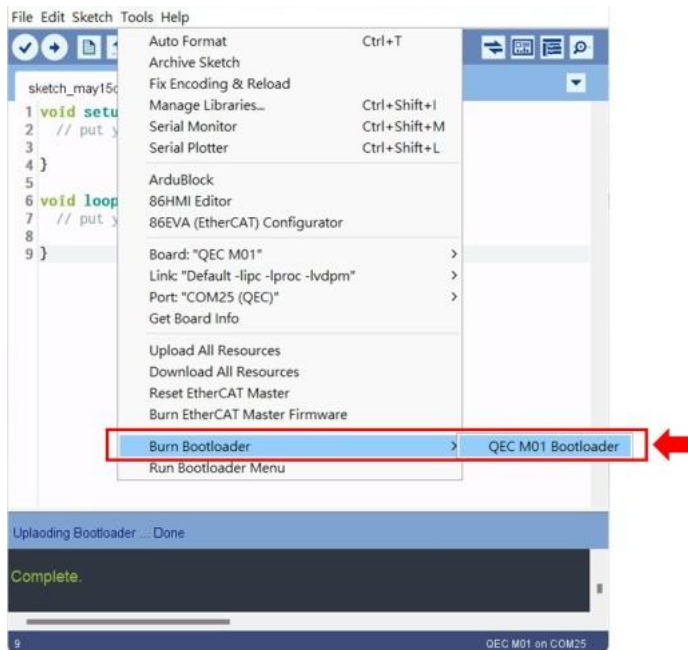
ステップ 1: QEC-M のセットアップ

1. 86Duino IDE 500+ (または最新バージョン) をダウンロードしてインストールします: [Software](#) からダウンロードできます。
2. QEC-M を PC に接続: USB ケーブルを使用して QEC-M を PC に接続します。
3. 86Duino IDE を開く: インストールが完了したら、86Duino IDE ソフトウェアを開きます。
4. ボードの選択: IDE メニューから、**[Tools] > [Board] > [QEC-M-01]** (または使用中の QEC-M の型名) を選択します。
5. ポートの選択: IDE メニューから **[Tools] > [Port]** を選択し、QEC-M が接続されている USB ポートを選択します。

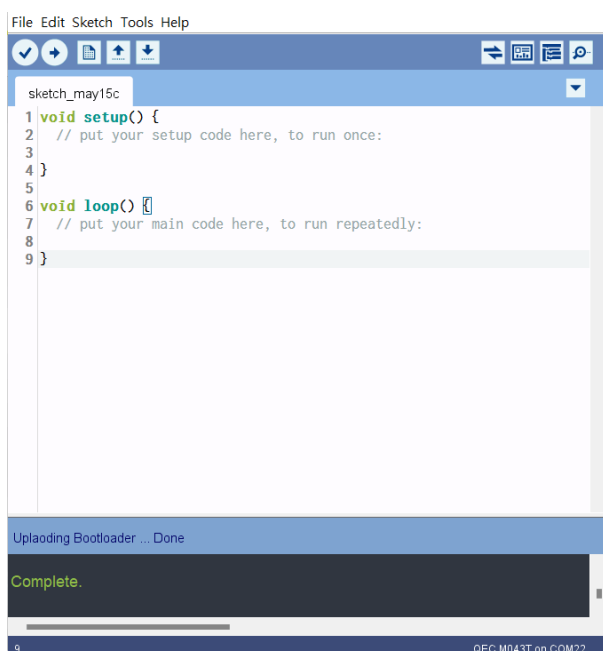
ステップ 2: 「Burn Bootloader」ボタンをクリック

QEC-M 製品に接続後、「Tools」>「Burn Bootloader」に移動します。現在選択されている QEC-M 名が表示されます。その上をクリックすると更新プロセスが開始されます。これには約 5~20 分かかります。

QEC-M-01:



ステップ 3: アップデートを完了



上記の手順を完了すると、QEC-M は最新の開発環境バージョンに正常に更新されます。

Warranty

This product is warranted to be in good working order for a period of one year from the date of purchase. Should this product fail to be in good working order at any time during this period, we will, at our option, replace or repair it at no additional charge except as set forth in the following terms. This warranty does not apply to products damaged by misuse, modifications, accident or disaster. Vendor assumes no liability for any damages, lost profits, lost savings or any other incidental or consequential damage resulting from the use, misuse of, originality to use this product. Vendor will not be liable for any claim made by any other related party. Return authorization must be obtained from the vendor before returned merchandise will be accepted. Authorization can be obtained by calling or faxing the vendor and requesting a Return Merchandise Authorization (RMA) number. Returned goods should always be accompanied by a clear problem description.

本書に記載されているブランド名および製品名は、各社の所有物および登録商標です。
本書に記載されている名称はすべて、識別目的のみに使用されます。

All Trademarks appearing in this manuscript are registered trademark of their respective owners. All Specifications are subject to change without notice.

©ICOP Technology Inc. 2025

日本語版資料は、英語版を翻訳したもので、内容に相違が生じる場合には原文を優先します。